

西の川山物語

西の河神社には平家落人にまつわる伝説が数多くある。西の河へ行つてお参りをする時には「平家は十三体がま明見、平家八幡虎馬御前七十五人の御眷族様」とお唱えをしなければならぬといわれている。屋島合戦で敗れ山づたいに落ちのびた一族はこのあたりに平家屋敷と称して高い身分の虎馬御前様を祀っていた。何軒かの見張りから多雲の夜に白旗が立ち、これに報せを受けた御前様は、敵の手にかかるよりも自害することを選び、西の河へ行つて滝壺へ七十五人が身投げをしたといわれる。

西の河には十三の滝壺があり昔から人々に恐れられていて、入口から橋が悪く名産などところどころに示す。林道が造成されるまでは底も見えないほど深い染がっらなり人を寄せつけない神秘的な雰囲気があり、様々な伝承などが伝わっている。

西の河のお釜を汚ると、炭の山の怒りにふられて、大きな村木がゴォーゴォーと轟音を鳴らして落ちてくる音が、鳴りひびくことが起るといふ民話がある。

2017.2.17真昼、西の河方面からバババと大木が落ちて、社をなぎ倒しながら落ちていく轟音を揚が谷山から聞いた。山や川には何の異常もなく、まるで不思議な出来事だった。

参道所「安芸」の民話にもとづいて「西の川」と「西の河」と表記は誤り。

土佐一円の国有林は長曾我部氏の領有であったが、関ヶ原合戦後山内氏三代の忠告当時の奉行野中兼山により、昭然とした山林制度が定められ、山内の森も防ぎながら各種資源の村の生産と土佐藩の経済の支えになってきた。



別役往還 サルワの谷、別役が五里下せると雲川、川谷へ東へ行くと仙谷。下には宝加勝山。

宝加勝山 38支線、海が見える

別役往還の中程にあり、四つ辻のはな7あり、この往還の重要なところ。そのうち大きなサルワ(シシノ)の木が、かた通行人がこの木の下でたむけ赤鬼の泣き声とともにおりてくるものに会っている。この下にある宝加勝銅山があり、この銅山の金の精が、銅山を掘りだしたとて、あつたといふ。明治になり銅山を掘りだしたら、この赤鬼はなくなつたといふ。

雨乞酒 ある年の真つと日照りが続き、何もかも枯れてしまふ、牛馬も倒れ、西の河のお釜に一寸の酒を捧げ、大天んが祈りをしたり、下535雨が降出したといふ。以来雨が降らない年は酒を持って祈禱を行つていた。

名前が死す滝壺 お釜 (神社の) ミツウのたて (神の谷) イタライ様 (砂防ダム) スリバチ様 長刺 大天ん様 平九郎様

スリバチ様は徳島池田の藩政手につなぐといふ。秋、狭い十四石の木村(42m)が33回ついた。高知市迄 6.5km

西の河神社 お釜ヶ池

西の川風景林

西の川のカモシカ

深い谷

美舞谷山

大天ん様

伊尾木川 久々場山と源流として、河口まで約43kmの河川。夏から秋にかけて鮎釣りで賑わう。上流に行くほど急峻な山が川に流れ込み、大小の岩のありと澄んだ水が流れる。新緑の頃は、はとのおぼど美しい。隣り合う安芸川とは河口で水が500mほど離れていない天幕川である。

安芸川 郡道

安芸市より 約30km

美舞谷林道

下久保山 1778m

美舞谷山

大天ん様

美舞谷山

大天ん様

大天ん様

流村 昭和20年代は木材の手段として、川流しや筏などにより伊尾木川に流し、材木が伊尾木まで運ばれた。昔木の流る川流しでは別役から伊尾木まで約10km。大がかりな堰を築いて大量に流るセキダシでは半月前後がかり。また、筏では九月流しはほとんど見られる山中の製材は板橋といふ。糸の巻はよく見られたといふ。森林鉄道や林道の完備により完全に過去のものと化した。

明治43年大井〜古井間、大正4年伊尾木〜伊尾木間、昭和37年伊尾木〜森林鉄道止。

伊尾木川には、鉄橋跡のみえる

H28.7.21 安芸市ではじめてツツノワズが目をされたといふ

